

京大病院における手術について

新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、患者のみなさまと医療従事者を感染から守るために、当院では手術などの運用を下記の通り見直しました。

(1) 全身麻酔による手術を予定して入院される患者さんに対する PCR 検査について

2020年5月11日以後に全身麻酔による手術を予定されている患者さんについては全員、新型コロナウイルスのスクリーニングを目的とした PCR 検査を受けていただくことになりました。手術予定日の5日程度前に入院していただき、入院後手術までの間は原則として個室の病室でお過ごしいただきます。入院前の外来 PCR 検査では、検査以後手術までの間の感染を否定できないため、このような対応をとらせていただきます。

もし、PCR 検査の結果、新型コロナウイルス陽性と診断された場合には、手術に緊急の必要性がない限り、新型コロナウイルス感染症の治療を優先して、手術を延期させていただきます。

ご不便をおかけしますが、ご理解頂きますようお願い申し上げます。

(2) 手術等の運用について

緊急入院され、PCR 検査結果が判明するまでの間に緊急手術が必要になることもあります。また、すでに新型コロナウイルス陽性と診断されている患者さんに対する緊急手術が必要になることもあります。このような場合には、医療従事者への院内感染を防ぐためにも、気圧を変更した陰圧手術室等において、マスク・防護服・フェイスシールドなど完全な感染対策を講じた体制で手術を行うことが必要になります。これらについては通常の手術に比して、多くの医療従事者による複雑な手順、特別な手術室が必要となります。

このため、当院では緊急性が高くない手術については可能な範囲内で延期し、予定手術件数を従前より約 20%程度少なくして手術室を運用しています。京大病院での手術を予定待機されている患者のみなさまにはご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、先日、本院の手術用ガウンが不足しているとの報道が一部報道機関でされておりますが、本院は皆様のご支援と計画的な使用によって、予定手術及び緊急手術に対応できるだけの備蓄を 2 ヶ月分以上確保しておりますので、ご安心ください。

(3) 高難度医療と感染症対応の両立について

感染症先行流行地域においては、複数の大学病院や地域基幹的な病院が院内感染のため、救急医療や手術を停止しています。また感染症治療に対応するために、予定手術を停止している病院も少なくありません。

京大病院は救急医療や新型コロナウイルス感染症に対する治療を担いつつ、これまで当院で行ってきた難病や移植あるいはがんゲノム医療など、高難度医療を維持し、京大病院でこそ救える命を救っていく責務があります。これらの医療を両立させていくためには、当院が持つリソースで出来ることをよく考え、院内感染をできる限りゼロに近づけるようにしなければなりません。

今後とも職員の感染予防に関する意識を高め、徹底した感染管理を行って、安心・安全な医療の提供の継続に尽力して参ります。今回の運用見直しによって、患者のみなさまへも一定のご不便をおかけしますが、本院の診療維持にご協力を賜りますようお願いいたします。

京都大学医学部附属病院長

宮本 享